【所　感】

長崎市議会議員　中村照夫

平成 27 年（2015 年）11 月 9 日から 13 日まで、福州市友好都市提携 35 周年記念訪問団の一員として、福州市を訪問しました。

今回の福州市は 4 回目の訪問で、訪問のたびに飛躍的な発展の姿を目にし驚くばかりです。

最初の訪問は 1980 年ごろで、まだ高速道路も整備されてなく、広州から長距離バスでがたがた道を長時間揺られて訪問したのを覚えています。

当時の福州は、石材の産地で、長崎の石畳の整備事業に福州の石材が利用されていました。

長崎と福州の友好都市提携も 1980 年に提携され、今回の訪問も提携 35 周年の記念事業として行われたものですが、その提携の経緯も、多くの長崎華僑が福州の出身であること、仏教の黄檗宗を日本に伝えた隠元和尚が福州の出身で長崎に渡り、その後京都から全国に仏教が広まったという歴史的深いつながりによるものです。

11 月 9 日午後 6 時、私たちは、福州長楽国際航空に到着。福州市人民政府外事弁公室の皆さんの出迎えを受けました。その後、一行は市街地までバスで 2 時間ほど走り、福州市外事弁公室張副主任主催の招宴を受けました。

2 日目は、水産交流団として、連江県官塢海洋漁業技術センター（海洋開発有限公司）を視察しました。

長崎市と福州市は、2008 年より水産交流協議書を締結し、双方の水産技術研修員の派遣事業を行っており、この有限公司からも多くの技術者が、長崎水産センターでの技術研修を行っております。

この海洋漁業技術センターは、漁業の研究、技術の普及、病害の予防等の役割を担っており、中国最大の海洋育苗基地として、昆布、海老、蟹、海鼠の育成、洋食、加工、販売等を総合的に行っています。年間の昆布の養殖面積は、700ha、昆布苗の育成は 20 万枚と中国でも有数の規模を誇っています。

海洋漁業技術センター職員との意見交換会では、中国側からは、長崎のクロマグロの養殖事業への関心が深く、福州でのクロマグロ養殖の可能性についての質問が多く出され、稼げる漁業へのあくなき追求の姿勢が強く感じられました。

こうした交流事業をさらに強化するため、11 月 11 日、今後 5 年間の水産交流協議書が以下の通り締結されました。

1、　今後さらの相互訪問団を派遣し、海洋資源と環境保護、漁業科学技術、漁業貿易について交流を深める。

2、　人工漁礁、水産種苗の生産、赤潮モニタリング、水産品加工等の技術交流を図りお互いの品種改良技術研究に協力する。

3 日目は、福州自由貿易試験区の視察を行いました。3 年前に訪問した際も福州港江陰港区の視察を行いましたが、今回は、福州保税港区、国際物流特区、鉄道物流特区、港湾集積特区が整備され、中国の中心的貿易特区としての発展がみられました。

今回視察した、福州自由貿易試験区においては、海外から物流を輸入する企業個人の税関業務をワンストップで速やかに行うことができる窓口ブースが 40 カ所以上並び、日本では考えられないようなワンストップ貿易推進業務が確立されていたことに驚きました。

4 日目は、上海市に移動し、長崎県の上海事務所を視察し、長崎県内企業の中国進出や、支援、観光物産 PR について聞きました。ここでは、近年長崎鮮魚の輸出拡大や、クルーズ船の誘致に力を入れ実績を上げています。

この後長崎魚市アンテナショップを訪問し、長崎鮮魚の上海を経由しての中国への販路拡大の状況を視察しました。

平成 27 年の長崎鮮魚の販売ネットワークは、上海、北京をはじめ 32 都市、約 550 社にのぼり、年間販売額 7 億円にのぼり、特にクロマグロの伸びが著しいこと、しかし、長崎空港、上海路線が週 2 便で、お客が少なくて休便することもあり、福岡便もつかわければならないなど、鯵などの青物鮮魚の販売に支障をきたす問題も抱えていることが報告されました。

今回の視察において、福州が、中国の貿易特区の中心的役割を果たし、年々素晴らしい発展を遂げていることを目のあたりにし、長崎市の経済停滞を一日も早く食い止めるための迅速な対応を強く感じさせられました。

以上福州市友好都市提携 35 周年記念訪問団の報告といたします。